

5. 海洋動物

(1) 調査概要

1) 調査方法

レッドデータブック作成のための現地調査の結果を基にして、希少な種や学術上重要な種の分布、地形的特性、環境特性などを考慮してハビタットを選定した。

2) 調査結果の概要

有明海の泥干潟、河口干潟、八代海（不知火海）の泥干潟、河口干潟、天草諸島の多様な海岸、砂質干潟、外洋砂浜、外洋岩礁地など、10ヶ所のハビタットを選定した。いずれも海域の環境が保全され、多くの希少生物が生息している重要なハビタットとなっている。全国的に干潟を中心に沿岸環境の悪化、生物相の貧困化が指摘されている中で、熊本県の海岸は比較的良好的な環境が保たれた場所が多く、保全すべき重要なハビタットが残っていると見える。特に羊角湾および八代海（不知火海）北部の2ヶ所は全国的に見て希少となった生物が多数かつ大量に生息することで特筆すべきものがある。国内最大個体群と目される種類も多く、保全には十分な注意を払う必要がある。

3) 今後の課題

現時点では熊本県の海岸は全国的に見て豊かな生物相が残っているが、九州大学および熊本大学の臨海実験所による過去の記録と比べると、ここ数十年の間にいなくなった種類も多い。高度成長期の海岸や河川の改修、沿岸の養殖などによる海の環境悪化などが原因と思われるが、比較的水質が改善した現在でもそれらは確認されていない。一度いなくなった種類が戻ることに困難なことを示している。今回選定したハビタットはそれぞれ特有の環境と生物種が見られる場所であり、これらの生物が生息できる環境を守っていく必要がある。

また干潟や河口域は人間の活動の影響を特に受けやすい場所であり、道路工事、港湾工事、河川の改修などによって壊滅的な打撃を受ける場合もある。工事等の計画がある場合は、事前に生物の専門家の助言を入れて、全国的に見て貴重な熊本の海岸の保全を考慮する必要がある。

(2) ハビタットの解説

10ヶ所について、以下で解説する。

1 富岡周辺海岸

天草郡苓北町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

【保護対象種】

CR：チョウセンハマグリ、アカウミガメ、フジナミガイ、ドロアワモチ、ミドリユムシヤドリガイ

EN：ムラサキガイ、ワダツミギボシムシ、ツバサゴカイ、ニンジンイソギンチャク、ヒナノズキン、イボキサゴナカセクチキレモドキ

VU：サナギモツボ

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

G 模式標本となっている個体の産地など、学術上重要なハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

外洋性の岩礁・転石・砂浜、波当たりの穏やかな干潟（砂底、泥底）、アマモ場など多様な環境があり、海岸生物の多様性は高い。潮位差が4m近く、外洋性の環境では国内最大級である。九州大学天草臨海実験所があり、多くの種の模式産地となっている。

【現状】

模式産地となっている種類はヒナノズキン、ミドリユムシヤドリガイ、イボキサゴナカセクチキレモドキほか多数となっている。多くの新種が記載された原記載地のアマモ場、泥質干潟は、高度成長期の海岸開発や養殖事業等の影響で消失した。現在分布が確認されていない種類も見られるが、周辺域の同様の環境を調査することにより再発見の可能性がある。また生存している種類も危機的な状況のものが多く、今後のモニタリングが必要である。

2 白鶴浜

天草市天草町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

【保護対象種】

CR：アカウミガメ、チョウセンハマグリ

VU：ナミノコガイ

【選定基準】

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

外洋性砂浜。チョウセンハマグリ、ナミノコガイの生息地として重要。天草下島の西岸に位置し、天草灘に開けた砂浜で、夏場は海水浴場として賑わっている。アカウミガメの産卵地として最も重要な場所である。

【現状】

アカウミガメの産卵地として富岡や牛深なども同様であるが、ウミガメが産卵する砂浜は海水浴場として利用されていて、適正に管理されないと踏圧により孵化できなくなる。そのため、柵で囲った中に卵を移植して孵化させるなどの保護対策が実施されている。ナミノコガイは外洋の砂浜に生息する二枚貝であるが、近年は稀にしか見られなくなった。また沖合には大型の、低潮線付近には小型のチョウセンハマグリが生息するが、近年減少傾向が著しい。海水浴場としての利用のため、堤防設置や砂の入れ替え等で環境変化が著しく、上記の外洋性二枚貝2種の生息に不適となりつつある。また海水浴場の外灯などがアカウミガメの孵化後の海へ戻る行動へ悪影響を与えることも懸念される。

3 牛深茂串周辺海岸

天草市

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

【保護対象種】

CR：アカウミガメ

VU：カヤノミカニモリ、トウガタカニモリ、ナミノコガイ、チドリマスオ

その他：タカラガイ類

【選定基準】

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

牛深の茂串周辺の海岸は、岩礁、転石地、砂浜で構成され、亜熱帯性の海岸生物の多様性も高く、良好な海岸生態系が存在する。種の多様性が高い。

【現状】

カヤノミカニモリ、トウガタカニモリ、ナミノコガイ、チドリマスオなどの他、タカラガイ類などの亜熱帯性の貝類が多く生息している。砂浜ではアカウミガメの産卵がみられるが、海水浴場として利用されており、保全には注意が必要である。

4 熊本市北西部干潟

河内・塩屋周辺

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【保護対象種】

EN：ハイガイ、イチョウシラトリ、イソチドリ

VU：テリザクラ、スオウクチキレ

【選定基準】

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

河内～塩屋は熊本市唯一の自然海岸であり、保全価値が高い。有明海の泥干潟生物群集が良好な状態で存在する。

【現状】

熊本市北西部の河内～塩屋～鰐洞にかけては、有明海特有の泥干潟生態系が良好な状態で残っており、ハイガイ、イチョウシラトリ、テリザクラなどの泥干潟棲種が生息している。河内ではイソチドリ、スオウクチキレが確認されている。塩屋に存在した塩性湿地の生物群集は漁港の拡張工事によって失われた。

5 白川・緑川河口

熊本市・宇土市

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【保護対象種】

EN：シオマネキ、ハイガイ、ササゲミミエガイ、シマヘナタリ

VU：ハマグリ、ミドリシャミセンガイ、ヒメヤマトオサガニ、ヒロクチカノコ、クロヘナタリ

その他：オカミミガイ類、カワザンショウ類

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

熊本市白川～緑川河口～宇土半島北東部の干潟は広大で、砂泥底～砂底が優占する。広大で良好な干潟生態系、塩性湿地が存在する。

【現状】

最も特筆すべき点はハマグリが多産することで、日本最大規模の個体群が存在している。また、ミドリシャミセンガイなどの個体群が存在する。泥底にはハイガイなども生息する。緑川や宇土半島北東部の塩性湿地には、ヒロクチカノコなど多くの種が生息している。

6 八代海（不知火海）北部、大野川・氷川河口

宇城市・八代郡氷川町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【保護対象種】

CR：ヤベガワモチ

EN：ウミマイマイ、ハイガイ、ササゲミミエガイ、シオマネキ、アリアケガニ、シマヘナタリ

VU：スミノエガキ、ハマグリ、ヒロクチカノコ、クロヘナタリ

NT：シカメガキ

その他：ムツゴロウ、ハゼクチ、マガキ、オカミミガイ類、カワザンショウ類

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

八代海（不知火海）北部の沿岸から大野川・氷川河口には、広大な干潟が広がり、塩性湿地が発達している。なお、大野川河口には特定外来生物ヒガタアシが侵入しており、対策が必要である。

【現状】

大野川河口の干潟は泥質でウミマイマイなどの有明海との共通種が多く生息している。大野川～砂川河口の干潟には、スミノエガキ、シカメガキ、マガキで構成されたカキ礁が多数存在する。氷川河口の干潟は砂泥底で、ハマグリが生息している。大野川、氷川の塩性湿地にはシオマネキなどの多くの種が生息しており、特にシマヘナタリの個体群は日本最大規模と考えられる。氷川河口のやや上流の汽水域には、タケノコカワニナが生息している。

7 球磨川河口

八代市

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【保護対象種】

EN：ヒナノズキン、ツバサゴカイ、ハイガイ、シマヘナタリ、ウモレベンケイガニ、シオマネキ、アリアケガニ

VU：イボキサゴ、ハマグリ、センペイアワモチ

NT：ミヤコドリ

その他：ナメクジウオ、オカミミガイ類

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

多様な底質からなる広大な干潟や転石や礫の河原が広がる他、アマモ場・藻場・塩性湿地の面積も広い。そのため、底生動物を始めとする多様な生物が生息している。また、シギ・チドリネットワークに指定されるなど、海洋生物以外にとっても重要な河口生態系である。

【現状】

河口域には砂質干潟、泥質干潟、塩性湿地と多様性が高い。また、航路浚渫や埋め立てによる環境の悪化も無視できない。ただし、現在でも希少種は多く、潮下帯ではナメクジウオ、ヒナノズキンなどが、干潟ではツバサゴカイ、イボキサゴなどが、転石・礫地ではミヤコドリなどが、塩性湿地とその周辺ではシマヘナタリ、センペイアワモチなどが生息している。

8 羊角湾

天草市

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【保護対象種】

CR：ヌノメヘナタリ、ビョウブガイ、オキヒラシイノミ、ヒメアカガイ

EN：マキガイイソギンチャク、アワジチガイ

VU：イボウミニナ、カニノテムシロ、イオウハマグリ、シオヤガイ、ヒメヤマトオサガニ、センペイアワモチ

NT：コゲツノブエ

その他：マガキガイ、オカミミガイ類、タカラガイ類

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

羊角湾には干潟、転石地、岩礁、海草藻場、塩性湿地などの多様な環境があり、海岸生物の多様性も高い。亜熱帯性の干潟貝類群集が存在する。羊角湾は全体として、環境と種の多様性が高く、生物地理学的にも興味深い貴重な環境である。

【現状】

干潟は砂泥～泥で、コゲツノブエ、イボウミニナ、カニノテムシロ、イオウハマグリ、シオヤガイなどの亜熱帯性の貝類が豊富に生息している。ヒメヤマトオサガニの県内最大の個体群が存在する。カニノテムシロの殻上にはマキガイイソギンチャクが共生している。アマモ、コアマモ、ウミヒルモ類からなる海草藻場が低潮帯～潮下帯に広く発達している。潮下帯の環境も非常に多様であるが、ビョウブガイ、アワジチガイなどの貴重な種が生息している。高潮帯、塩性湿地にはオカミミガイ類、センペイアワモチなどの絶滅危惧種が多く生息している。湾口部ではマガキガイやタカラガイ類などの亜熱帯性の貝類が多く見られる。

9 松島町一帯の海岸

上天草市松島町

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

【保護対象種】

CR：ドロアワモチ

EN：ヒナノズキン、アリアケケボリ、ウモレベンケイガニ、コオキナガイ

VU：ハクセンシオマネキ、ヒメヤマトオサガニ、キヌカツギハマシイノミ、シオヤガイ

その他：オカミミガイ類

【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

1950年代より熊本大学合津臨海実験所（現在は合津マリンステーション）によって松島周辺の生物相調査が行われており、本地域は生物相の特徴や変遷が明らかになっている国内でも数少ない海域のひとつである。

【現状】

現在、環境省モニタリングサイト1000の調査地にも選定されている。

10 本渡干潟

天草市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

【保護対象種】

CR：ミサキギボシムシ

EN：ニンジンイソギンチャク、ワダツミギボシムシ、ツバサゴカイ

VU：イボキサゴ、ハマグリ、ウミサボテン

【選定基準】

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

【概要】

天草下島と上島の間広がる県内最大の砂質干潟であり、生物多様性も高い。

【現状】

ミサキギボシムシ、ニンジンイソギンチャクなどが群生し、良好な砂質干潟の典型として全国的にも貴重なものとなっている。ミサキギボシムシの県内最大の個体群が存在したが、ホトトギスガイの大量発生により消失し、少数個体のみしか見られなくなった。干潟にウミサボテンの大群落があり、潮のよく引く日には潜水しなくても観察できる。イボキサゴやツバサゴカイも高密度で出現する。他の干潟と同様に海辺の改変や埋め立てなどの計画が何度も出てきており、保全には注意を要する。